

過去の地震

三河地震

昭和20(1945)年1月13日午前3時38分に発生した三河地震はマグニチュード6.8の直下型地震でした。死者数は2306名、家屋全壊数は7221戸に及びました。三河地震の特徴は、東南海地震の約1か月後に発生した地震であること、戦時中であったこと、そして家屋全壊数に対して死者数が多い地震であることがあげられます。

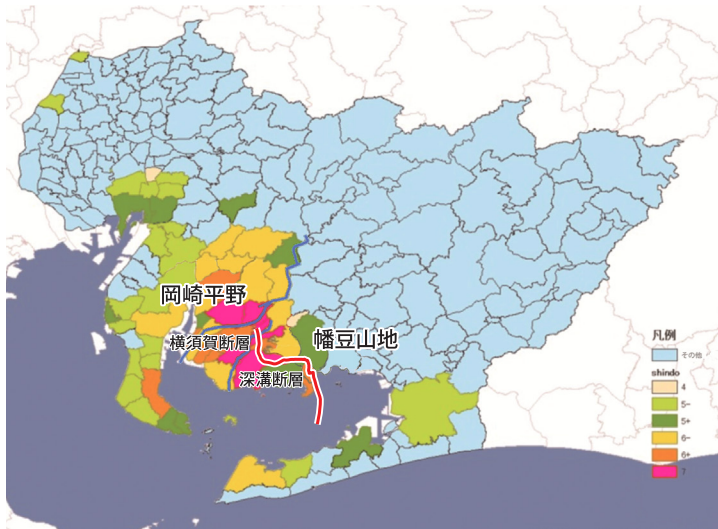
震度分布からは、震度の高い地域が断層の西側に広がる岡崎平野に集中していることが分かります。一方、東側に位置する幸田村や豊坂村は幡豆山地からなる丘陵地帯であり、西側に比べると震度が低いことが分かります。ここでも地盤条件の差が震度評価に明瞭に表れていることが分かります。



地割れの様子

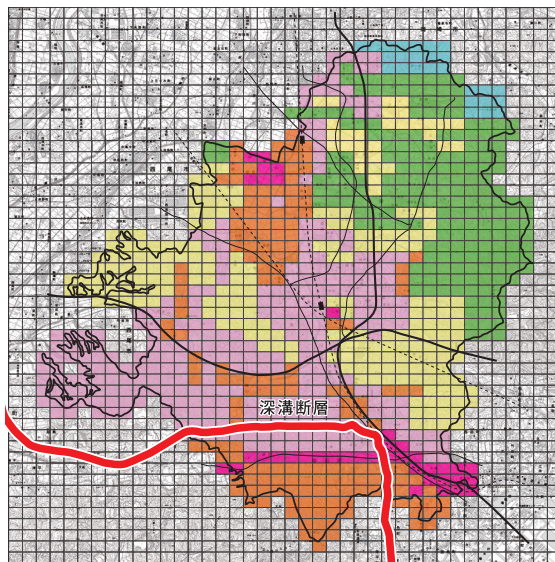


深溝断層で盛り上がった田んぼ



三河地震震度分布図(愛知県全域)

三河地震の揺れの強さ分布図



三河地震震度分布図(幸田町)

凡例

断層	—	※愛知県活断層アトラスを元に作成
単位Gal		
400(震度7)~	250~300(震度6弱)	
350~400(震度6強)	200~250(震度5強)	
300~450(震度6弱~強)	~200	

幸田町域では、深溝断層が姿を現した現在の幸田町南部を中心に大きな被害が確認されています。

この地図はボーリング調査等から推測された当時の揺れの強さの分布図です。赤に近づくほど揺れが強い地域となります。お住まいの地域はどの色に該当しますか？

この地図からは、断層が通っている深溝地域は当然のことながら、旧菱池の干拓地でもあり、地盤の緩い相見駅南西一帯も、激しい揺れであったことがわかります。

問5

正解は ② 三河地震 でした！



昭和20(1945)年1月13日午前3時38分に発生した三河地震は幸田町の深溝地区や岡崎平野に大きな被害をもたらした地震です。